

## 落札者決定基準

## 大阪府立大学図書館業務委託 総合評価一般競争入札

本委託業務に最適な事業者を公平かつ客観的に選定するため、次に掲げる方法により、提案内容及び価格の2つの観点で評価する。

## 1. 審査機関

- (1) 本業務委託における提案内容等の審査は、大阪府立大学図書館業務委託提案審査委員会（以下「審査委員会」という。）において行う。
- (2) 審査委員会は、本業務の入札説明書で求める提案書が、仕様書に記載している要件を満たしているかの判断及び下記 4 に基づき付与する点数の判断について審査する。

## 2. 落札者決定基準

## (1) 落札者の決定方法

ア 次の各要件に該当する入札者のうち、3 に定める評価方法により算出された提案点と価格点の合計点が、最も高い者を落札者とする。

- (a) 価格点の基となる入札書記載金額が、予定価格の範囲内であること。
- (b) 提案点が 130 点以上であること。

イ 最高得点者が 2 者以上あるときは、提案点が高い者を落札者とする。なお、提案点、価格点とも同点の場合は入札書記載金額の低い者を落札者として決定する。提案点、価格点とも同点で入札書記載金額が同額の場合は、当該者にくじを引かせて落札者を決定する。この場合において当該落札者のうち出席しない者又はくじを引かない者がいるときは、入札執行業務に関係のない職員に、これに代えてくじを引かせ落札者を決定する。

## (2) 提案点および価格点の配分

点数は 370 点満点とし、得点配分については、提案点を 260 点、価格点を 110 点とする。

なお提案点の点数内訳は以下のとおり。

評価項目	配点
1. 本学図書館業務実施についての基本的な考え方	24
2. 業務運営体制	24
3. 業務従事スタッフへの研修の実施	24
4. 持続的な人員確保のための方策	20
5. 閲覧サービスの充実、向上	32
6. 図書館における利用指導の充実	28
7. 図書（冊子体）の収集・整理業務の効率化	40
8. 雑誌（冊子体）の受入・整理業務の効率化	24
9. ILL サービス業務の効率化	24
10. 図書館業務受託実績	20
計	260

## 3. 提案書の評価方法、ならびに価格点の算出方法

提案書の評価方法、ならびに価格点の算出については、仕様書及び評価基準に基づき次のとおり行うこととする。

- (1) 評価基準については、4 のとおりとする。
- (2) 各提案について、評価基準に記載している要求要件を満たしているかを判断し、具体的かつ評価できる場合については、その提案に応じ提案点を付与する。

- (3) 仕様書及び評価基準に記載されていない提案については、本業務の必要度及び重要度に照らし、必要の範囲を超えているものについては評価の対象としない。
- (4) 各提案者の提案点については、審査委員会において決定する。
- (5) 提案点を決定後、入札書を開封し、入札書記載金額が予定価格の範囲内であるものを対象に、下記の方法により価格点を算出する。  
「価格点＝120×(1－入札書記載金額／予定価格)」  
「入札書記載金額／予定価格」の計算にあたっては、小数点以下第3位で四捨五入するものとする。価格点が小数点を含む場合、小数点以下第1位で四捨五入するものとする。  
なお、入札書記載金額が予定価格を上回っているときは失格とする。

#### 4. 評価基準

提案書の評価項目及び評価基準は以下のとおりとする。

- (1) 本学図書館業務実施についての基本的な考え方  
本学図書館業務を実施するにあたっての抱負や基本方策について評価する。
  - ア 本学が提供する資料や公開されている情報などをもとに、本学の教育研究内容や図書館業務の現状を理解した内容の提案である。
  - イ 大学図書館業務実施にあたってのコンセプトやコンプライアンスの保持体制などが具体的に明記されている。
- (2) 業務運営体制  
提案書に記載されている要員、体制が、委託業務を迅速かつ的確に行うことができる内容となっているかについて評価する。
  - ア 仕様書に記載した業務を遂行できるスキルや経験を有する要員を適切に配置する体制が記述されている。
  - イ 本委託業務の運営における組織としてのバックアップ体制について、具体的かつ明確に記述されている。
- (3) 業務従事スタッフへの研修の実施  
本委託業務に従事するスタッフへの研修実施体制について評価する。
  - ア 本委託業務に必要な事前研修の実施について、具体的かつ明確に記述されている。
  - イ 本委託業務に従事するスタッフのスキルアップのための研修計画が、具体的かつ明確に記述されている。
- (4) 持続的な人員確保のための方策  
本委託業務を安定的に遂行するため、スキルを要する人員を持続的に確保する方策について評価する。
  - ア スキルを要する人員確保についての実績や事例が、具体的かつ明確に記述されている。
  - イ スキルを要する人員確保についての、組織としての今後の方針が、具体的かつ明確に記述されている。
- (5) 閲覧サービスの充実、向上  
閲覧サービスの充実、向上について評価する。
  - ア 本学の教育研究内容や図書館体制に応じた図書館窓口での教育研究支援サービスの向上、専門領域のレファレンスサービスなどについて具体的な提案が記述されている。
  - イ 外国人留学生、障がいをもつ利用者、府民利用者など多様な利用者への対応などサービスの向上等について具体的に記述されている。
- (6) 図書館における利用指導の充実  
図書館における利用指導の充実について評価する。
  - ア 図書館所蔵資料の利用方法、図書館施設、設備等の利用方法の案内・指導等について、具体的に記述されている。
  - イ 電子情報や各種文献検索方法の効果的な利用指導方法について、具体的に記述

- されている。
- (7) 図書(冊子体)の情報収集・受入・整理業務の効率化  
図書(冊子体)の情報収集・受入・整理業務の実施手法、効率化について評価する。
    - ア 本学が提供する資料や公開されている情報などをもとに本学の図書(冊子体)の情報収集・受入・整理業務の現状を理解した業務体制が記述されている。
    - イ 本学の図書(冊子体)収集業務について有益な提案が具体的に記述されている。
    - ウ 本学の図書(冊子体)整理業務の効率化に有益な提案が具体的に記述されている。特に図書館システム(E-cats)とのスムーズな連携が留意されている。
  - (8) 雑誌(冊子体)の受入・整理業務の効率化  
雑誌(冊子体)の受入・整理業務の実施手法、効率化について評価する。
    - ア 本学が提供する資料や公開されている情報などをもとに本学の雑誌(冊子体)の受入・整理業務の現状を理解した業務体制が記述されている。
    - イ 本学の雑誌(冊子体)の受入・整理業務の効率化に有益な提案が具体的に記述されている。
  - (9) ILL サービス業務の効率化  
ILL サービス業務の実施手法、効率化について評価する。
    - ア 本学が提供する資料や公開されている情報などをもとに本学の ILL サービス業務の現状を理解した業務体制が記述されている。
    - イ 本学の ILL サービス業務の効率化に有益な提案が具体的に記述されている。
  - (10) 図書館業務受託実績  
大学図書館業務の実績を有しているかについて評価する。
    - ア 過去の図書館業務における業務内容等について、具体的に記述されている。
    - イ 最近3年間の大学図書館業務に関する具体的な実績が記述されている。

## 5. 提案点の考え方

評価項目単位の採点は、0～4点までの5段階評価とする。

- 非常に優れている・・・・・・・・・・4点
- 優れている・・・・・・・・・・3点
- 理解できる・・・・・・・・・・2点
- 低いレベルである・・・・・・・・・・1点
- 非常に低いレベルである・・・・・・0点

(記載がない場合を含む)

評価項目の重要度に応じて、2～4倍の重み付けを行う。